

平成 27 年度畑作関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

(公財) 日本植物調節剤研究協会

平成 27 年度畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成 27 年 12 月 2 日(水)～3 日(木)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者 56 名、委託関係者 66 名ほか、計 139 名の参集を得て、除草剤 42 薬剤(152 点)、生育調節剤 2 薬剤(4 点)、展着剤 1 薬剤(4 点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

除草剤

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意		
1. AH-01 液 グルホシネートPナトリウ ム塩:11.5% [Meiji Seika ファルマ 北興化学工業]	春播小麦	継									・効果、葉害の確認
2. ALH-0831乳 クレトジム:24% [アリスタ ライフサイエン ス]	てんさい	実	一年生イネ 科雑草	茎葉	てんさい生育 期, イネ科雑 草3～5葉期	35～50mL <水量100L>	全土壌	北海道	・スズメノカタビラに効 果が劣る。		
					てんさい生育 期, イネ科雑 草5～8葉期	50～75mL <水量100L>					
			多年生イネ 科雑草 (シバムギ, レッドトッ プ)		てんさい生育 期, 多年生イ ネ科雑草3～5 葉期	50～75mL <水量100L>					
3. BAH-0805乳 ジメテナミドP:19.7% ペンディメタリン:23.1% [BASFジャパン]	とうもろこ し (飼料用 および食 用)	実・継 (従来ど おり)	一年生雑 草	土壌	とうもろこし播 種後～2葉期, イネ科雑草2 葉期まで	200～400mL <水量70～ 150L>	全土壌 (砂土 を除く)	全域			・スズメノカタビラ に対する効果に ついて年次変動 の確認(北海道)
4. BAS-656乳 ジメテナミドP:64% [BASFジャパン]	いんげん まめ(菜 豆)	実・継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前, 雑草発生 前	75～120mL <水量100L>	全土壌 (砂土 を除く)	北海道	・アカザ科, アブラナ 科, タデ科には効果が 劣る。		・手亡での葉害の 確認
5. BCH-081フロアブル ジフルフェニカン:8.4% フルフェナセット:33.6% [バイエルクロップサイエ ンス]	春播小麦	実	一年生雑 草	茎葉 兼土 壌	播種後～小麦 3葉期, イネ科 雑草1葉期ま で	60～80mL <水量70～ 100L>	全土壌 (砂土 を除く)	北海道	・葉に白斑や黄化, 褐 変を生じる場合があ る。		
6. DCMU 水和 DCMU:80% [* 保土谷UPL, 北興化 学]	食用亜麻	実・継	一年生広 葉雑草	茎葉 兼土 壌	亜麻生育期(5 ～10cm), 雑 草発生揃期	60g <水量100L>	全土壌 (砂土 を除く)	全域	・生育の進んだ雑草に は効果が劣る		・中耕後処理での 効果の確認 ・一年生イネ科雑 草に対する効果 の確認
7. HSW-9104S乳 デスメディファム:2.3% フェンメディファム:10% S-メトラクロール:7.5% [ホクサン]	てんさい (移植)	実・継 (従来ど おり)	一年生雑 草	茎葉 兼土 壌	てんさい定植 活着後, 雑草 発生揃期	500mL <水量50～ 100L>	全土壌 (砂土 を除く)	北海道	・タデ科に効果が劣 る場合がある		・中耕後処理での 効果、葉害の確認
8. MBH-075乳 プロスルホカルブ:46% リニユロン:11.5% [丸和バイオケミカル]	ばれい しよ	実・継	一年生雑 草	土壌	植付後萌芽 前, 雑草発生 前	400～600mL <水量100L>	全土壌 (砂土 を除く)	全域			・年次変動の確認 (北海道)
				茎葉 兼土 壌	植付後萌芽 前, 雑草発生 始期	300～600mL <水量100L>					

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	作物名	判定	使用基準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
9. MBH-135 乳 フルチアセツメチル:2% [丸和バイオケミカル]	大豆	実・継 (従来ど おり)	一年生広 葉雑草	茎葉	大豆2~4葉 期, 雑草生育 期(草丈10cm 以下)	30~50mL <水量100L>	全土壌 (砂土 を除く)	東北以 南	・シロザ, ヒユ科, ナス 科の優占圃場で使用 する ・キク科, カヤツリグサ 科には効果劣る ・処理時に展開してい た葉に褐斑を生じ, 生 育が遅れる場合がある	・有効草種につい ての確認
10. NC-331水 和 ハロスルフロメチル:5% [日産化学工業]	飼料用と うもろこし	実・継 (従来ど おり)	一年生広 葉雑草, 多 年生広葉 雑草	茎葉	とうもろこし3~ 5葉期, 広葉雑 草2~5葉期	50~75g <水量100L>	全土壌	東北以 南	・シロザ, ナス科, ツユク サ科には効果劣る	・ヒルガオ類に対 する効果の確認 ・オオオナモミ, オ オブタカサに対す る効果の確認
			イチビ		とうもろこし3~ 5葉期, イチビ 2~5葉期	50~100g <水量100L>		全域		
			シヨクヨウガ ヤツリ		シヨクヨウガ ヤツリ2~5葉期	50~75g <水量100L>		東北以 南		
			キクイモ		とうもろこし5葉 期, キクイモ生 育期			北海道		
11. NC-360フロアブル キザロホップエチル:7% [日産化学工業]	かんしょ	実・継	一年生イネ 科雑草	茎葉	かんしょ生育 期, イネ科雑 草3~8葉期	200~300mL <水量100L>	全土壌	全域	・体系処理:広葉雑草 対象の既登録土壌処 理剤を使用する。 ・スズメノカタビラには 効果劣る。	・薬量300mL/10a, イネ科雑草10葉 期での年次変動 の確認 ・薬量200mL/10a, イネ科雑草10葉 期での効果, 薬害 の確認
			かんしょ生育 期, イネ科雑 草8~10葉期		300mL <水量100L>					
12. NC-622液 グリホサートカリウム 塩:48% [日産化学工業]	大豆	実・継	一年生雑 草	茎葉	耕起または播 種前 雑草生 育期(草丈 30cm以下)	200~500mL <水量25~ 100L>	全土壌	東北以 南	・散布水量4~6L, 25~ 50L/10aの場合は専用 ノズルを使用する	・耕起前処理にお ける散布水量4~ 6L/10aでの年次 変動の確認
						500mL <水量4~6L>				
					播種後出芽前 雑草生育期 (草丈30cm以 下)	200~500mL <水量25~ 100L>				
					茎葉 (畦 間)	生育期 雑草生育期				
茎葉	大豆 落葉期 ~成熟期, 雑 草生育期	500~1000mL <水量50~ 100L>								
13. NK-1101 水 和 S-メトラクロール:24. 8% プロメリン:26. 6% [日本化薬]	大豆	実 (従来ど おり)	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前, 雑草発生 前	225~300g <水量70~ 100L>	全土壌 (砂土 を除く)	全域		
	とうもろこ し (飼料用 および食 用)	実・継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前, 雑草発生 前	225~300g <水量70~ 100L>	全土壌 (砂土 を除く)	全域		・年次変動の確認 (北海道)
14. NM-536P乳 ジメテナミドP:8. 5% リニュロン:12% [日産化学工業]	大豆	実 (従来ど おり)	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前, 雑草発生 前	400~600mL <水量100L>	全土壌 (砂土 を除く)	全域		

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	作物名	判定	使用基準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
15. NP-55乳 セトキシジム:20% [日本曹達]	小豆	実・継	一年生イネ科雑草	茎葉	小豆生育期, イネ科雑草3~5葉期	150~200mL <水量100~150L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・スズメノカタビラには効果劣る	・イネ科雑草6~8葉期での効果, 葉害の確認(東北以南)
					小豆生育期, イネ科雑草6~8葉期(草丈30cm以下)	200mL <水量100L>		北海道		
	おけら	実	一年生イネ科雑草	茎葉	おけら生育期, イネ科雑草3~6葉期	150~200mL <水量100L>	全土壌	全域	・スズメノカタビラには効果劣る	
	しゃくやく(薬用)	継								・効果, 葉害の確認
	せんきゅう	実	一年生イネ科雑草	茎葉	せんきゅう生育期, イネ科雑草3~6葉期	150~200mL <水量100~150L>	全土壌	全域	・スズメノカタビラには効果劣る	
はっか	継								・効果, 葉害の確認	
16. NP-65液 トプラメゾン:3.6% [日本曹達]	とうもろこし(飼料用)	実・継	一年生雑草	茎葉	とうもろこし3~5葉期, 雑草3~5葉期	100~150mL <水量 50~150L>	全土壌	全域		・散布水量50L/10a処理での年次変動の確認
					とうもろこし5~7葉期, 雑草5~7葉期	150mL <水量100~150L>				
17. S-482顆粒水和 フルミオキサジン:50% [住友化学]	ばれいしょ	実	一年生広葉雑草	土壌	植付後萌芽前, 雑草発生前	10~20g <水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域		
18. SL-122顆粒水和 フルアジホップP:7% リニユロン:30% [石原産業]	大豆	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前, 雑草発生前	250~300g <水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域	・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし, 本葉にかからないように散布する	・薬量200g/10a, 播種後出芽前処理での効果, 葉害の確認 ・薬量250g/10a, 播種後出芽前での年次変動の確認(北海道)
					大豆生育期(本葉3葉期以降), 雑草生育期(草丈15cm以下)	200~300g <水量100L>				
	大豆生育期(本葉5葉期以降), 雑草生育期(草丈15cm以下)		北海道							
かんしょ	継								・効果, 葉害の確認	
19. SL-573 フロアブル トルピラレート:10.4% [石原バイオサイエンス]	とうもろこし(飼料用および食田)	実・継(従来どおり)	一年生雑草	茎葉	とうもろこし3~5葉期, 雑草生育期(草丈15cm以下)	30~50mL <水量100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草が多い圃場では高薬量で使用する	・とうもろこし6~7葉期処理での効果, 葉害の確認
20. SL-574 フロアブル トルピラレート:3.1% ニコスルフロン:3.1% [石原バイオサイエンス]	とうもろこし(飼料用)	実・継	一年生雑草	茎葉	とうもろこし3~5葉期, 雑草生育期(草丈15cm以下)	100~200mL <水量100L>	全土壌	全域	・処理後白化, 黄化, 一時的な生育抑制が生じる場合がある。	・一年生雑草に対する年次変動の確認(北海道) ・多年生イネ科雑草に対する効果の確認
21. SYJ-100 乳 プロスルホカルブ:78.4% [シンジェンタジャパン]	大麦(春播き)	実・継	一年生雑草	土壌	播種後~出芽揃期, 雑草発生始期まで	500mL <水量100L>	全土壌(砂土を除く)	北海道	・一過性の葉斑, 葉の褐変, 黄化などの症状がみられる場合がある。	・薬量400mL/10aでの効果, 葉害の確認
22. UPH-002 フロアブル フェンメディファム:16% [保土谷UPL]	てんさい(移植)	実・継(従来どおり)	一年生広葉雑草	茎葉	てんさい定植活着後, 雑草発生揃期	400~600mL <水量100L>	全土壌	全域	・低薬量では効果が劣る場合がある	・育苗期での効果, 葉害の確認 ・散布水量50L/10a処理における効果, 葉害の確認(定植活着後)
					中耕後, 雑草発生揃期					
	てんさい(直播)	実・継(従来どおり)	一年生広葉雑草	茎葉	てんさい2葉期以降, 雑草発生揃期	400~600mL <水量100L>	全土壌	全域	・低薬量では効果が劣る場合がある	・散布水量50L/10a処理での効果, 葉害の確認(中耕後, 第2本葉展開後)

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	作物名	判定	使用基準						継続の内容		
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意	
23. ZK-122液 グリホサートカリウム 塩:44.7% [シンジェンタ ジャパン]	大豆	実・継 (従来ど おり)	コウキヤガラ	茎葉	耕起または播 種7日以前 雑草生育期 (草丈30cm以 下)	250～500mL <水量25～ 50L>	全土壌	東北以 南	・専用ノズルを使用す る	・問題雑草への効果 の確認(雑草茎 葉塗布処理)	
			一年生雑 草			250～500mL <水量25～ 100L>					
						250～500mL <水量25～ 100L>					
			茎葉 (畦 間)	大豆生育期、 雑草生育期	250～500mL <水量25～ 50L>						
	一年生広 葉雑草		茎葉 (雑草 塗布)	大豆生育期、 雑草生育期	2倍希釈液 (0.1mLを1～ 3ヶ所/株)	全土壌	東北以 南	・専用塗布処理器を使用 する ・作物に付着しないよう に塗布する ・分枝の多い雑草には 2ヶ所以上塗布する			
	そば	実 実・継 (従来ど おり)	一年生雑 草、多年生 雑草(スギ ナを除く)	茎葉	耕起または播 種前 雑草生 育期(草丈 30cm以下)	250～500mL <水量25～ 100L>	全土壌	全域	・少量散布(25～ 50L)の場合は専用ノズ ルを使用する。	・塗布処理での効果 、薬害の確認	
24. トリフルラリン 乳 トリフルラリン:44.5% [ダウ・ケミカル日本]	大豆	実・継 (従来ど おり)	一年生雑 草	土壌 混和	播種前、雑草 発生前	200～300mL <水量100L>	全土壌 (砂土 を除く)	東北以 南	・ツユクサ科、カヤツリ グサ科、キク科、アブラ ナ科、ナス科には効果 が劣る ・土壌混和処理は散布 後速やかに混和し、深 度は5～10cmを目安と する	・中耕培土後の、 畦間・株間処理で の効果、薬害の確 認	
				土壌							播種後出芽 前、雑草発 生前
				土壌 (畦 間)							中耕培土後 雑草発生前
25. フェンメディファム 乳 フェンメディファム:14. 7% [ホクサン]	てんさい (直播)	実	一年生広 葉雑草	茎葉	子葉展開期～ 本葉抽出期、 雑草発生揃期	150～200mL <水量50～ 80L>	全土壌	全域	・展着剤を加用する ・前処理後発生した雑 草を対象とする。		
					中耕除草後、 雑草発生揃	500～600mL <水量50～ 80L>					

生育調節剤

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	作物名	判定	使用基準						継続の内容	
			対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. ジベレリン 水溶 ジベレリン:3.1% [協和発酵バイオ, 住友 化学, Meiji Seika ファ ルマ]	ばれい しょ	継								・効果、薬害の確 認

展着剤

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	作物名	判定	試験された使用法						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. NK-0701 展着剤 ジオクチルスルホコハク 酸ナトリウム:22.5% ポリオキシエチレンド シルエーテル:50.0% [日本化薬]	てんさい (移植)	—								
	てんさい (直播)	—								